

とうきょう すくわくプログラム活動報告書



施設番号	66-1436
施設名	うきま絆第二保育園
施設所在地	東京都北区浮間 3-1-55
法人名	社会福祉法人絆友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

からだ 遊び

<テーマの設定理由>

公園や土手などに散歩に出かける頻度が多く、室内遊具もある当園の特徴を活かし全身で遊ぶことを手間とする。手や足、指先などを使った様々な遊びに挑戦するなかでどのようにしたらうまくできるか、面白いと考えている様子が見られた。粗大運動や微細運動だけでなく感触などを楽しむ姿も見られることから全身を使った遊びについて興味関心を深めるためテーマを設定した

2. 活動スケジュール

令和7年11月から令和8年3月
計5回（11月、12月、1月、2月、3月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

マット、巧技台、鉄棒、トンネル、平均台、坂、階段

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

公園や土手への散歩、また室内遊具が充実している当園の特徴を活かし、「からだ、遊び」をテーマに活動を行いました。手足や指先を巧みに使う遊びの中で子どもたちが「どうすればうまくできるか」「どのようにしたら面白いか」と自ら考え工夫しながら主体的に取り組む姿を見守りました。

活動ではマットや巧技台、鉄棒、トンネル、平均台、坂道、階段と言った様々な遊具を組み合わせてサーキット遊びから始めました。単に身体を動かすだけでなく、平均台でバランスを取る際の手の広げ方や坂道を上る時の足の踏ん張り方など、自分の体と向き合いながら感覚を言葉にして先生や他児と共有する姿が見られました。また、粗大運動だけでなく指先を使った微細な動きや、素材の感触を楽しむ活動も取り入れ、全身を通して多様な刺激を感じられるように配慮しました。

鉄棒や巧技台での活動では、最初は慎重だった子ども、友達に挑戦する姿を見て「やってみたい」と意欲を高めコツを教え合ったり、成功した喜びを共有したりする姿が見られました。また、室内だけでなく戸外での活動では、季節や天候によって変化する地面の硬さや草の感触を全身で受け止め、室内遊具とは異なる「動かしにくさ」を遊びに変えていく探究心が見て取れました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

苦戦していた動きがうまくできると、「見ててね」とできたことを共有したり、「こうやるんだよ」と教え合う姿が見られました。保育者に「どうやるの」と聞く姿も見られましたが一緒にどのようにすればいいか考えることで、あきらめずにやってみようとする姿が増えていきました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

同じサーキット遊びや戸外活動の中でも、子ども一人ひとりが異なる着眼点や興味を持っていることを改めて実感しました。自分の体の動かし方一つにしても、同じ動作の中でも足の使い方を気にする子もいれば、手の使い方に着目する子もいるなど、一人ひとりが自身の身体を通して多様な捉え方をしているのが印象的でした。また、気づきを他の子に共有する事で新たな挑戦への意欲が広がっていきました。

子どもたちが「どうすればできるか」と試行錯誤する疑問に対し、保育者が正解を教えるのではなく、主体性を尊重しながら「どうしてだろうね」と一緒に考え、挑戦をともにする大切さを再認識する事ができました。子どもたち自身が考え挑戦していける環境を作っていきます。